

『SDGs』、『SDGs 未来都市』とは

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標で、平成27(2015)年9月の国連サミットで193の国連加盟国の全会一致で採択されたものです。持続可能な社会を目指すために、達成すべき17のゴール(目標)と169のターゲット(具体的目標)から構成されています。

また、亀岡市が提案した『「かめおか霧の芸術祭」×(かけるエックス)~持続可能性を生み出すイノベーション』が、SDGs達成に向けた優れた地方自治体の取り組みとして、令和2(2020)年にSDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業の選定を内閣府より受けました。

亀岡市は『SDGs 未来都市』として、霧の芸術祭をハブとし、世界に誇れる環境先進都市など様々な施策を推進することで、持続可能なまちづくりに挑んでまいります。

かめおかフラッグごみゼロ宣言

亀岡市は、平成24(2012)年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取り組みを発信してきました。平成30(2018)年、亀岡市は亀岡市議会とともに『かめおかフラッグごみゼロ宣言』を行いました。取り組みをさらに深化させ、令和12(2030)年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指す。そして、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。

令和3年度ふるさと体験学習事業

京都・亀岡 保津川下り 乗船券



かつて角倉了以が拓き、数百年にわたり京の都を水運で支え、
ふるさと亀岡に豊かさをもたらした保津川

先人の知恵と努力、ふるさと亀岡への思いを未来へとつなぐのは私たち
山あいの急流から大河となり、やがて海原へと注ぐ保津川
プラスチックごみによる海洋汚染は、内陸の亀岡と無縁の問題ではありません

亀岡市では平成30年、「プラスチックごみゼロ」を宣言
また、令和2年には「SDGs未来都市」に選定され、豊かな自然環境を守り、持続可能な
社会を創造するため、様々な取り組みを展開しています

「世界に誇れる環境先進都市」 「人と時代に選ばれる リーディングシティ」

それが亀岡の未来

その未来の亀岡を拓くのは皆さん自身です

保津川下り乗船体験を通じ、ふるさとの美しさ、自然環境の尊さを感じ、
勇気と希望を胸に、素晴らしい未来へと漕ぎ出でてください

令和4年2月

亀岡市長

桂川孝裕



亀岡市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援していきます

ともに生きる



プラごみゼロ